

も容易であった。検査時間、被曝線量を考えても優れた検査法といえ、スクリーニング検査として、骨スキャンを先に行い、陽性部位をX線で検討する方向が良いと考える。

14. Co-Bleomycin の iodination

○河野 彬 尾関已一郎

(久留米大・放)

前田 辰夫

(九州がんセンター)

〔目的〕 Co-Bleomycin (Co-BLM) を ^{131}I で標識し、その腫瘍親和性を調べる。

〔方法〕 Bleomycin (BLM) を ICE 法で iodo 化し、BLM (^{131}I) を調製した。これに CoCl_2 を反応させて Co-BLM (^{131}I) を調製した。大岐に Ehrlich 固型腫瘍を有する ddN 系雄マウスを用いて体内分布を検討した。

〔結果〕 BLM の標識収率は約 50%、標識位置は Histidine 環の 3 位と推定される。

Co-BLM から直接 Co-BLM (^{131}I) は得られなかった。

Co-BLM (^{131}I) を投与後の放射能分布は 1 時間後に腫瘍/肝臓比が約 1.5 であるが、6 時間後には約 0.5 であった。

腫瘍/血液比は 6 時間後に約 10 であった。

〔考察〕 BLM の iodination はすでに J. Meyers らによって報告された。[J. Nucl. Med. 16 (9) 835 (1975)]、私達は BLM より腫瘍親和性に富む Co-BLM を ^{131}I で標識した。 ^{131}I の結合位置と考えられる Histidine 環は Co (II) の結合によって立体的障害を受け、 I^1 と反応しなくなると考えられる。

体内分布での腫瘍親和性は Co-BLM (^{131}I) が $^{57}\text{Co-BLM}$ に劣るようである。

15. $^{75}\text{Se-methionine}$ の著明な集積をみた悪性胸腺腫と思われる 1 症例

○塩川 祐幸 渡辺 克司 仲山 親

鴨井 逸司 森田 一徳 古賀 一誠

沼口 雄治

(九州大・放)

南里 宏樹

(同・一内)

悪性腫瘍のシンチグラフィーは主としてクエン酸ガリウム等で行われているが、 $^{75}\text{Se-methionine}$ による腫瘍シンチグラフィーの報告も散見される。最近、組織学的には証明が得られなかったが、臨床経過、血管造影、及びクエン酸ガリウムによるシンチグラフィー等から考えた悪性縦隔腫瘍、特に悪性胸腺腫に心のう炎を伴ったと思われる症例に、 $^{75}\text{Se-methionine}$ を使用したところ、著明な集積をみとめ、治療及びその効果判定に有用であった症例を経験したので報告する。

16. 肺サルコイドーシスにおける $^{67}\text{Ga-Citrate}$ シンチグラフィーの有用性について

○園田 勝男 後藤 有人 中條 政敬

樋口 和博 坂田 博道 篠原 慎治

(鹿児島大・放)

肺サルコイドーシスの診断に際しては、胸部 X 線検査をはじめとする種々の検査が施行されているが、われわれは腫瘍親和性の核種とされている。 $^{67}\text{Ga-citrate}$ を用いてシンチグラフィーを行ない、胸部 X 線像との対比・検討を加えている。今回検討の対象とした 20 症例においては、まず肺門部リンパ節では X 線像で異常のみられる 16 症例の全てに異常集積像が得られ、更にこの中には胸部 X 線像では出現しがたい縦隔部のリンパ節においても、病変の有無とその侵襲範囲の推定が可能であった症例も含まれている。また X 線像では異常ないと考えられた 4 例中の 1 例においてもシンチグラムで異常が確認され、肺門部の病変はほぼ確実に検出できるものと考えられる。一方肺野部病変